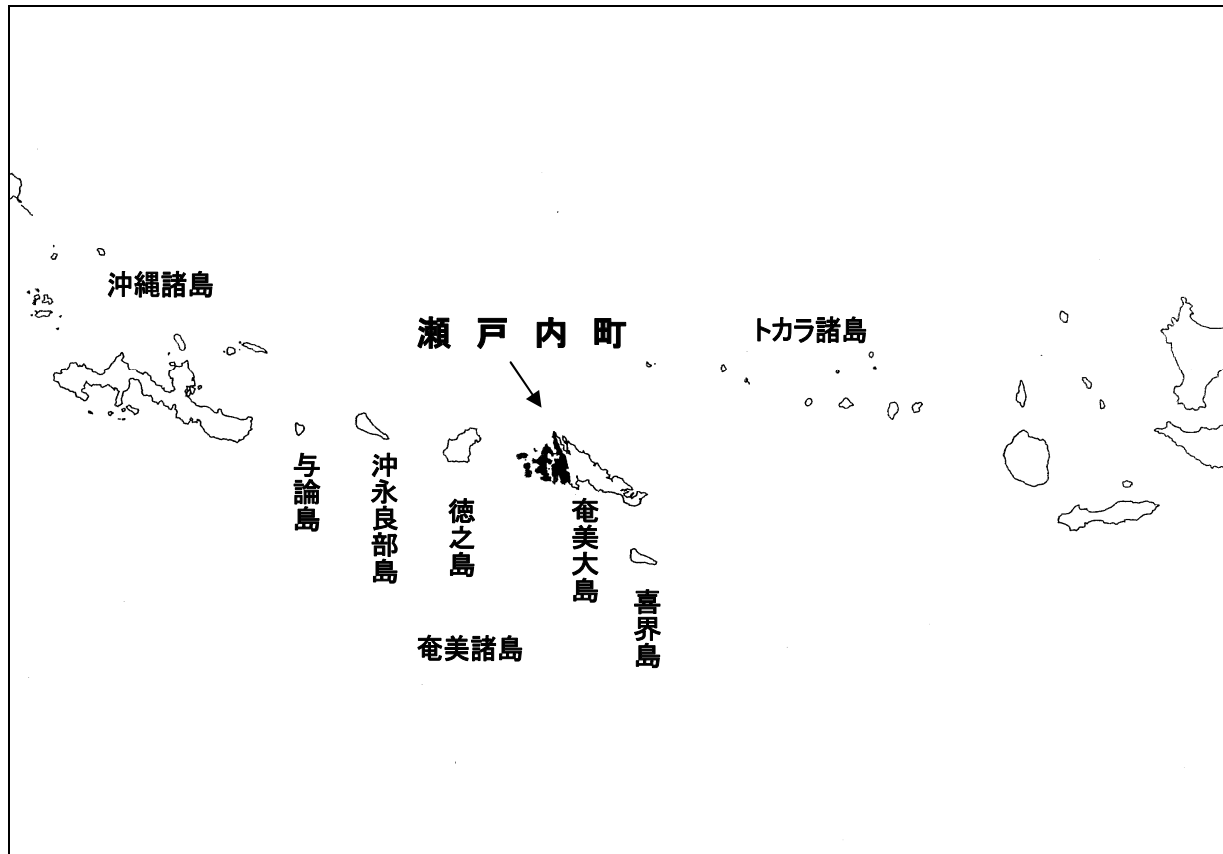


# 第1章 調査に至る経緯

近年、奄美諸島の各地で開発事業が相次いでおり、その規模も拡大してきている。その為、開発事業に伴う発掘調査も増大し、重要な遺跡が次々と発見されてきている。瀬戸内町も例外ではなく、町内各所で開発事業が行われている。しかし、瀬戸内町の埋蔵文化財は、嘉徳遺跡という重要な遺跡があるにもかかわらず、一般的には認知度は低いのが現状である。そうした状況から埋蔵文化財や文化財に影響のある開発事業も出現してきており、瀬戸内町教育委員会としても開発事業に対応し埋蔵文化財の周知徹底・保護・活用できるよう、町内の埋蔵文化財詳細資料の作成が急務となった。

そこで、瀬戸内町教育委員会では、平成15(2003)年度から町内の埋蔵文化財詳細分布調査を実施継続してきている。調査対象地区としては、緊急に開発事業が計画される可能性の高い、集落とその周辺部に絞り込み調査を実施した。平成16(2004)年度までの調査の進行状況は、調査対象地区の約七割である。瀬戸内町は、面積が広大であり、加計呂麻島や請島、与路島などの離島も抱えているため、思うように調査が進まず、調査対象地区を絞り込んでいるにも関わらず、町内全域の調査は完了していない。しかし、埋蔵文化財の周知及び開発事業に対応し、埋蔵文化財を保護・活用するためには、現在発見・確認している埋蔵文化財の詳細な分布状況を報告書にまとめることが必要である。そこで平成15(2003)年度から平成16年度にかけての調査で発見・確認している埋蔵文化財の詳細な分布状況をまとめ『瀬戸内町遺跡詳細分布調査報告書』が作成される事となった。



第1図 瀬戸内町位置図